

vol.50-04 (通算 565号)

2020年7月号

# やどかり

2020年7月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

## 発足から50年 節目の定時総会開催 やどかりの里の社会的使命と責任を自覚して

毎年6月に開催するやどかりの里定時総会。今回は、COVID-19感染予防の観点から書面評決での実施となった。法人発足から50年、書面での総会は初めてのことだ。

現在、法人会員は247人。当日までに意思を表明した会員は175人。議案への反対意見はなく、「生活支援・地域定着支援のより一層の充実を望んでいます」「メンバーの年齢をみると生涯にわたる取り組みをしていることがよくわかった」「数字から、寄付を募り懸命な運営の実態を感じた」「誰も取り残さないという理念に共感」「夜明け前の上映活動を通して、支援の行き届いていない人がまだいると感じた。今後も上映活動を続けていくことが大事」など、多くの意見が寄せられた。

また、今期をもって土橋敏孝さんが代表理事を退任した。3月の理事会で役員の変更について協議をしていたが、今期の総会において重・退任が承認され、その中で新たに代表理事に増田一世を、常務理事に大澤美紀を選任した。

土橋さんのやどかりの里とのかかわりは深い。故谷中輝雄さんの大学時代の同級生で、志を同じくする仲間として、1973年の法人設立当初から理事として運営に携わり、財政難の厳しい状況が続く中、ともに地域での活動を模索し取り組んできた。2001年には谷中さんの理事長退任の意思を受け、世代交代を進め、法人運営のあり方を検討するため、「理事会のあり方を考える会」を1年にわたり開

催。土橋さんは議長を務め、当時の理事や会員を中心に、会員による会員のための組織という法人の原点を再確認しながら、今につながる理事会の体制が創られていった。折しも2001年はさいたま市が誕生し、やどかりの里は世代交代とともに、地域に資する活動を新たに展開し始めた年でもある。

2002年に理事長に就任してからは、障害者自立支援法への反対運動、エンジュの移転や援護寮(現サポートステーションやどかり)の改修の際のさいたま市との折衝、住民説明会への参加など、さまざまな局面において力を尽くしてくださった。2012年に毎日社会福祉顕彰受賞の際は、授賞式で関係者と喜びを分かち合っていた姿は印象深い。やどかりの里の草創期から50年、その社会的使命と責任を念頭に、さまざまな危機的場面においても尽力され、やどかりの里にとっては欠かすことのできない存在だ。これからは理事の1人として活動に携わってくださる。

1970年、住まいと働く場を提供したことから始まったやどかりの里。ピンチはチャンスと捉え、乗り越えてきた50年。多くの方々の協力があったからこそ、今のやどかりの里がある。今年はCOVID-19の感染拡大の影響を受け、事業運営への打撃も懸念されている。しかし、こんな時だからこそ、やどかりの里が培ってきた知恵と経験を力に変え、揺らぐことなく、ぶれることなく、未来につながる活動を着実に進めていきたい。